

欧米文化Ⅰ－Ⅰ

科目ナンバリング EUL-101
【Ⅲ】 選択 2単位

木谷 巖

1. 授業の概要(ねらい)

「感受性」および「美的＝感性的(エッセティク)なもの」という言葉をキーワードとして、西洋の文学・文化に触れることを目的とする。春期の講義ではロマン派詩人P・B・シェリーの詩論『詩の擁護』(1821)を通じて、彼が親しんだ古典古代から19世紀前半までの代表的な西洋文学を俯瞰することを試みる。詩的なもの、あるいは美的＝感性的なもの(美感的なもの)とは何かというシェリーの問いかけを追体験することによって、西洋文学のなかにある感性をめぐる思想を探索する。

2. 授業の到達目標

・20世紀以降の学問的見地からだけではなく、19世紀前半のヨーロッパを生きた詩人シェリーのまなざしを通じてヨーロッパ文学・文化の歴史をみてゆくことで、その歴史的な流れを重層的・多角的にとらえることができる。
・「感性」をめぐるさまざまな文学的な描写や表現に触れることで、まさに自分の感じた事柄を言語によって表現する力を養う。

3. 成績評価の方法および基準

講義への積極的な参加(出席・感想カード含む)40%、最終筆記試験60%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は用いずに、毎回資料(ハンドアウト)を配布する。

参考文献

上田和夫訳 『シェリー詩集』(2007年改版) 新潮文庫

アルヴィ宮本なほ子編 『対訳シェリー詩集』(2013年) 岩波文庫

佐々木健一 『日本の感性』(2010年) 中公新書

5. 準備学修の内容

各回の授業では、前回提出されたコメントペーパーをもとにこれまでの復習・まとめをおこなうので、コメントペーパーの内容を重視する。したがって、毎回配布した資料および参考文献をよく読み、講義内容をより深く理解しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

各国の文学に興味のある学生の参加を歓迎する。また、授業への積極的な参加・発言が望まれる。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | シェリーのまなざしを通じたヘレニズムとヘブライズム |
| 【第3回】 | シェリーとプラトン——美と愛(エロス)の概念について |
| 【第4回】 | シェリーとローマの詩人——ウェルギリウスとオウィディウスを中心に |
| 【第5回】 | 「永遠の女性」をめぐる——ダンテとシェリー |
| 【第6回】 | ネオ・プラトニズムの神学とシェリーの美学 |
| 【第7回】 | シェイクスピアを読むシェリー |
| 【第8回】 | 中間まとめ |
| 【第9回】 | 絶対者への挑戦——ミルトンの『失楽園』とシェリーの『鎖を解かれたプロメテウス』 |
| 【第10回】 | 18世紀の道徳哲学——趣味(テイスト)の概念と美的＝感性的(エッセティク)なもの |
| 【第11回】 | 感受性の人——シェリーの導き手としてのルソー |
| 【第12回】 | 感受性の時代と前＝ロマン主義 |
| 【第13回】 | ロマン主義の時代——イギリスにおける第一世代の詩人を中心に |
| 【第14回】 | ロマン主義の時代——イギリスにおける第二世代の詩人を中心に |
| 【第15回】 | 全体のまとめ、筆記試験 |
- ※状況に応じて順番や内容が変わる可能性もある。